

取材日：2018年9月11日



糖尿病



尾張西部医療圏

多職種の糖尿病ケアチームを結成し 地域の糖尿病診療をリードする。

Point of View

- ① 多職種で構成される糖尿病ケアチーム(DCT)を結成して患者と向き合う
- ② 持続血糖モニタリング(CGM)及びフラッシュグルコースモニタリング(FGM)を活用し、個々の患者に最適なテーラーメイドの治療を提供
- ③ 開業医や医療スタッフ向けの講演会などを開催し、地域の糖尿病診療の向上に貢献

社会医療法人大雄会
総合大雄会病院
副院長

村瀬 寛先生

社会医療法人大雄会
総合大雄会病院
内分泌・糖尿病内科診療部長

則竹 伸保先生

社会医療法人大雄会
総合大雄会病院
看護師長

大口 かおり氏

社会医療法人大雄会
総合大雄会病院
栄養科管理栄養士

鷲尾 拓弥氏

社会医療法人大雄会
総合大雄会病院
薬剤部薬剤師

堀野 真史先生

急性期疾患の発症を防ぐため 早くから糖尿病に取り組む

総合大雄会病院（以下、大雄会病院）は、名古屋市のベッドタウンである一宮市の基幹病院として歴史を刻んできた。

急性期医療を担う病院でありながら、早くから糖尿病診療に取り組んできた理由を、副院長で糖尿病専門医の村瀬先生が語る。

「一般的には糖尿病は慢性疾患ととらえられていますが、糖尿病性ケトアシドーシスや高血糖高浸透圧症候群のような高血糖緊急症で救急入院する方もいれば、虚血性心疾患等の合併症で搬送される方もいます。つまり、糖尿病は急性期疾患につなが

りうるので、それを阻止するのも急性期医療の使命と考え、治療に力を入れてきました」（村瀬先生）

地域での同院の立ち位置を、内分泌・糖尿病内科診療部長の則竹先生が解説してくれた。

「地域の診療所や病院の先生方からの電話で『お願いします』と言われれば、高血糖緊急症の患者さんを、

すぐにERで診られる体制になっています。

緊急の紹介以外でも、血糖コントロール不良で紹介いただく患者さんも多数います」（則竹先生）

地域の医療機関は糖尿病で困ったら、急性期、慢性期にかかわらず、大雄会病院を頼りにしている様子がかがいが知れる。



左から村瀬先生、則竹先生、大口氏、鷲尾氏、堀野先生

一丸となって患者を支援する 糖尿病ケアチームのメンバー

【資料1】

DCTが行ってきたイベント

糖尿病の治療において、同院が地域から頼られる大きな理由のひとつは、多職種で編成されている糖尿病ケアチーム（DCT：Diabetes Care Team）の存在だろう。DCTの実質的な活動は、チーム医療という言葉が普及する以前からすでに始まっていた。

「DCTの前身となる糖尿病担当者談話会の第1回のミーティングが開かれたのは1998年です。当時のメンバーは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士。このころから、多職種が話し合いながらチームで活動する体制ができ上がっていきました」（村瀬先生）

約20年の月日の間にチームの名称はDCTとなり、現在は内分泌・糖尿病内科の医師4名、看護師5名、薬剤師2名、管理栄養士3名、臨床検査技師2名、歯科衛生士1名、理学療法士1名で構成される。

DCTにおける看護師の役割を説明してくれるのは、看護師長の大口氏だ。

「看護師は患者さんの療養指導やインスリン導入の指導、フットケアなどを行います。そのほか、外来では栄養指導も行っている所以で食生活のスタイルを管理栄養士に伝えて、患者さんの栄養指導に生かしてもらったり、薬の効果や使い方で困ったと

開催年月	テーマ	内容
2003年10月	糖尿食を体験	デモ試食会
2005年10月	歩こう会	ウォーキング
2012年6月	楽しく運動	タオルを使用したエクササイズ
2012年10月	糖尿食を体験	プロに学ぶ調理実習（フレンチ）
2013年6月	楽しく運動	ボールを使用した運動療法
2013年10月	糖尿食を体験	カレーバイキング
2014年6月	屋内でできる運動	家でもできる簡単体操
2014年11月	糖尿食を体験	おでんバイキング
2015年7月	屋内でできる運動	運動療法
2015年12月	糖尿食を体験	お正月の食生活 気を付けたいこと？
2016年6月	屋内でできる運動	タオルを使用したストレッチ体操
2016年11月	糖尿食を体験	普段のめん類を見直そう
2017年7月	屋内でできる運動	椅子を使用したストレッチ体操
2017年10月	健康フェスタ参加	DM関連ポスター、健康相談、血糖測定、糖尿病講演
2018年8月	糖尿食を体験	量って作ろう！夏バテ防止メニュー
2018年11月	世界糖尿病デー、糖尿病週間イベント	健康相談、血糖測定、超尿病教室

出典：村瀬先生提供資料

きには薬剤師に相談します。もちろん、医師にも治療に役立ちそうな患者さんの生活や家族の状況を報告しています。チームで一緒に治療しているといった感じですね」（大口氏）

つづいて薬剤師の堀野先生が同じくDCTでの薬剤師の役割について言及する。

「薬剤師が主に担うのは、教育入院の患者さんの服薬指導です。意外と服薬を忘れてしまう方が多いので、今使っている薬の効果などを説明して、服薬がいかに重要ななどの話をします」（堀野先生）

管理栄養士の鷺尾氏は、外来患者や入院患者の栄養指導を行うと話す。

「管理栄養士は、教育入院で栄養指導をするほか、外来に移行した患者さんに対しては、1ヵ月後、3ヵ月後、

6ヵ月後、1年後と定期的に栄養指導を行い、患者さんが適切な食事をとっているかを継続的にフォローします」（鷺尾氏）

週に3回も行われる糖尿病教室には、DCTのメンバー全員がかかわり、各々が専門分野の講義を受け持って充実した内容で実施している。

DCTメンバーが全員参加して 体験型イベントを開催

毎月1回、日常の診療の問題点などとは別に、DCT会議で熱心に討議される議題がある。それが、大雄会病院独自の患者参加型イベント。運動主体のイベント、または食事主体のイベントを年2回企画しているそうだ。

患者やその家族とDCTメンバー全員が参加し恒例行事となった体験型のイベント（【資料1】）は、「タオルを使用したエクササイズ」、「プ



実際に、患者が調理や食事をする様子を観察すると、栄養指導にも生かせるという。

「普段の診察とは違い、リラックスした雰囲気の中、患者さんと医療スタッフが交流することで親しみの感情が生まれ、お互いの治療へのモチベーションが高められていると感じます」（大口氏）

大雄会病院では、患者一人ひとりの病態やライフスタイルに最適なテーラーメイドの糖尿病治療を提供している。そのために、積極的に導入

同院では、まだ大学
病院等の先進的な医療
機関しか使っていなか
った時代からCGMを
導入。個々の患者の血
糖値変動のパターンを
測定し、その結果によ
って薬剤の変更や調整
をするなど、テーラー
メイドの治療に生かし
てきた。

「CGMやFGMは、血糖
値の変動パターンをグ
ラフ化して患者さんに

「則竹先生は、患者さんの症状や、CGMの血糖変動パターンをもとに薬剤を選択し、その考え方を医療スタッフにも丁寧に説明してください。私自身も薬剤師として勉強になっています」（堀野先生）

また村瀬先生は、2015年から地域の医療スタッフを対象に『西尾張チーム医療を考える会』も開催する。「地域の薬剤師や看護師、管理栄養士など、糖尿病にかかわる医療スタ



夏の糖尿病教室

食事療法

糖尿病の患者さまとそのご家族を対象に、おいしくバランスの良い食事を摂っていただくために食事療法イベントを開催しました。

8月5日開催
今日のテーマ

「量って作ろう！」 夏バテ防止メニュー」



【メニュー】

- ・ごはん
- ・豚肉となすのレンジ煮し
- ・キャベツのマスタード和え
- ・杏仁豆腐と香港澳スィーツ「九龍珠」

①管理栄養士が食材を量る
大切さや夏バテ防止
メニューのポイントを説明



②各自がメニューの食材
から自分に合う量さ
をお皿に取ります



③調味料、ごはんの量も
確認します。



④メニュー料理の調理後、
ごはん・副菜・デザートも
加えたメニューを
おいしくいただきました。



管理栄養士の
ツッポイントアドバイス

手ばかり菜養生

「自分の手のひら」を使って1日に食べる
食材の目標量を知ることができます！

- 肉・魚・卵・大豆食品
(1食分) 片手のひらにのりけるくらい
- 野菜
生野菜 (1食分) 両手のひら山盛り
ゆで野菜 (1食分) 片手のひら山盛り



食事しながら講義も行われました
医師による
「**間食について**」 「**糖尿病と運動療法**」




朝食は、時間、量、内容が
重要ですね。ちよよと運動で
ベクトルボルのドットラン
も60分ですの、体を動かしま
も十分にできましよう！

今後も糖尿病患者さま向けの食事療法や運動療法などのイベントを実施していく予定です。
イベントの参加ご希望の方は、主治医または内科外来へお問い合わせください。

社会福祉法人
大雄会



【資料3】

糖尿病診療情報提供書

糖尿病診療情報提供書
(かかりつけ医➡病院・専門医)

□にチェックしていただき、従来の診療情報提供書に添付してください。

<診断名>

1. 糖尿病 (□1型、□2型、□その他・不明)

<紹介目的>

- ☐ 糖尿病状態の把握
☐ 糖尿病の治療方針決定
☐ 血糖コントロール
☐ 糖尿病教育
☐ 栄養指導
☐ インスリン・GLP-1 自己注射導入
☐ 合併症検査・治療 () の評価
☐ 妊娠糖尿病の管理
☐ その他 ()

<今後の診療について>

- ☐ 自院で継続して診療する。
☐ 条件付で、自院で継続して診療する。
 ☐ インスリン自己注射は不可。
 ☐ GLP-1 製剤自己注射は不可。
 ☐ 自己血糖測定は不可。
 ☐ その他 ()
☐ 連携スケジュールを使い、双方で連携して診療する。
☐ 病院で継続診療を希望する。

出典：村瀬先生提供資料

ップを対象に、チーム医療の実践例やチーム運営に関する講義を行っています」(村瀬先生)

こうした講演会や講義を開催する中で、村瀬先生は逆紹介をスムーズに進める必要性を感じ、糖尿病の診療と連携を考える会において、紹介状である糖尿病診療情報提供書(【資料3】)を作成した。

「当院で治療した患者さんが紹介元の診療所で治療を継続する場合、その診療所でどのような治療が可能であり、当院とどのような連携を希望

するのかを確認するために、情報提供書を作成しました。インスリンやGLP-1 受容体作動薬の自己注射の患者さんを診られるかなどのチェック項目を設け、簡便に記入いただけるようになっています。

この情報提供書の運用によって、どの段階で患者さんをお返しすればいいのかがわかるようになり、紹介した先生方も、戻ってきた患者さんを不安なく受け入れられることを期待し、一宮市医師会とともに普及活動を行っています」(村瀬先生)

重症化予防にも尽力して
地域に貢献し続ける決意

今後の展望について尋ねると、地域に根ざした医療に取り組んできた同院ならではのコメントが聞けた。「地域住民の方々が何を望んで当院に来院されるのか——『健康で長生きをしたい』と願っているからでしょう。ですから、健康寿命をなるべく延ばして差し上げたいと思っています。

糖尿病であっても、健康な人と変わらない生活をできる限り長くしていただけるようにと考えています。しかし、私ひとりでは、とうてい実現は不可能。DCTのメンバーとともに、患者さんの希望をかなえるべく力を尽くしていく所存です」(則竹先生)

「地域の医療資源は有効活用すべきというのが、私の考えです。したがって糖尿病の治療では、地域の先生方に『栄養指導だけでも当院にご依頼ください』と申し上げています。

これから当院は、糖尿病性腎症重症化予防プログラムでも愛知県の推進協力医療機関として参加することになっています。地域における当院の役割を認識しつつ、今後も専門性の高いチーム医療によって、糖尿病診療をリードする存在であり続けられるよう努力を重ねていきたいですね」(村瀬先生)

村瀬先生の言葉から、地域医療を支えようとする使命感に燃えた強い決意が伝わってきた。

社会医療法人大雄会
総合大雄会病院

〒491-8551
愛知県一宮市桜1-9-9
TEL：0586-72-1211